

外国に関する 集合的記憶とテレビ

——ウェブ・モニター調査（2010年2月）の報告(3)——

小城英子・萩原 滋・テーシャオブン
上瀬由美子・李 光鎬・渋谷明子



▶ 問 題

集合的記憶とテレビ

自伝的記憶とは、具体的な体験に関するエピソード記憶も含めて、過去の自己に関わる情報の記憶を指しており（佐藤，2008），新しい記憶，特に最近10年間の記憶ほどよく想起される（新近性効果；O'Connor, Sieggreen, Bachna, Kaplan, Cermak, & Ransil, 2000）一方，10～30代の出来事の記憶が多い（バンプ；Rubin, Wetzler, & Nebes, 1986）という特徴がある。一方，集団や社会全体に共有されている記憶のことを集合的記憶といい（Halbwachs, 1950 小関訳 1989），一部の集合的記憶は，自伝的記憶とも関わりを持っている。

小城・萩原・村山・大坪・渋谷・志岐（2010）は，マス・メディアが提供したコンテンツにおいてもバンプが認められると同時に，テレビが後世においても繰り返し映像を提示することが，若年層に対しても古い出来事の疑似的な体験をもたらし，世代を超えて社会的に共有される集合的記憶を構築することを指摘している。

小城ほかの研究は，国内外のテレビ番組，有名人，社会的出来事を包括的に扱っていたが，国内の出来事や人物は相対的に関与が高いことから，外国の出来事や人物に比べて認知数も記憶量も多いと考えられる。本報告では，マス・メディアが提示する外国に主軸を置き，テレビ番組と社会的出来事の記憶について，年代の比較を中心に分析することを目的とする。

日本における外国番組

1950年代のアメリカでは，「パパは何でも知っている」に代表されるようなシットコム（シチュエーション・コメディ；登場人物や場面設定が同じで，エピソードだけが毎回異なる）と呼ばれるホームドラマがドラマの中心であった（西野，1998）。アメリカに遅れること10年，1953年に日本のテレビ放送が開始され，民放開局が相次いだものの，技術や設備，タレントの不足から，国産ドラマの水準は低かった。急増した放送時間を埋めるために，アメリカドラマの輸入に頼らざるを得ず，ホームドラマは格好のコンテンツとして積極的に放送されて，日本社会や，国産のテレビドラマに多大な影響を与えることとなった（佐田，1983）。

しかしながら，1960年代の全盛期には50本以上が放送されていたアメリカドラマも，1970年代から減少し，1980年代にはプライムタイムに放送されるアメリカドラマはごくわずかとなった。これは，日本のドラマ制作能力が向上し，輸入に頼らずとも，国産で上

質なドラマを生産できるようになったことが一因である。アメリカドラマは本数が少なくなり、さらに地上波のプライムタイム放送から外れて、深夜の時間帯や衛星放送へと移行していった（岩男，2000）。1980年代は「特攻野郎 A チーム」，「ナイトライダー」などのアクションや事件ものが多かったが，1990年代には「ビバリーヒルズ青春白書」，「ER」，「アーリー my LOVE」など，登場人物を取り巻く人間関係にフォーカスし，アメリカの特定の都市を舞台としたローカル性の強いライフ・スタイルを描写した作品が中心となる（河津，2009）。

次に海外ドラマの新たなブームが到来するのは，2000年代に入ってからである。新たなブームでは，性役割分業や画一的な家族像が描かれていた60年代のアメリカのホームドラマと異なり，独身のキャリア女性や不倫・離婚を描いていたり，あるいは奇想天外なストーリーがスピーディーに展開されたりすることが特徴である。たとえば，「Sex and the City」は，1998年から2004年にかけてアメリカの有料放送局 HBO で放送されたテレビドラマで，通算6シーズン，計94話（1話30分）が制作された。ニューヨークを舞台に，30～40代の独身キャリア女性4名の日常を描いており，離婚や不倫，奔放なセックス，同棲，シングルマザー，同性愛など，性的なタブーを赤裸々に扱っていることが特徴である（河津，2009）。日本では，有料放送局 WOWOW によって2000年から放送され，さまざまな反響を呼んだ。

その一方，2000年代以降の海外ドラマのブームには，「冬のソナタ」を機に新たに韓流が加わったことが特徴である。「冬のソナタ」は，韓国 KBS で2002年に放送された恋愛ドラマで，「運命」，「記憶喪失」，「血のつながらない兄妹」といった，日本の往年の恋愛ドラマを彷彿とさせるモチーフがふんだんに盛り込まれている。2003年4月にNHK衛星で放送されたが，反響が大きかったことから同年12月に再放送，2004年4月にNHK総合で放送，同年12月に再放送された（島村，2007；林，2005など）。「冬のソナタ」は主として中高年女性に支持されていたが，2004年4月にNHK衛星で放送，翌2005年にNHK総合で放送された「宮廷女官チャングムの誓い」から，韓国ドラマに対する男性の支持も上昇している。「宮廷女官チャングムの誓い」は，朝鮮王朝時代に女官・医女として宮廷で生きていく女性の半生を描いた歴史ドラマで，朝鮮王朝時代の文化や風俗，宮廷における権力闘争などが大きな魅力となっている（坂口，2008）。

テレビ視聴について調査した小城・萩原・村山・大坪・渋谷・志岐（2010）は，10代～60代以上を対象に，国内外の過去のテレビ番組の記憶や情緒的関与を尋ねているが，他の世代に比べて50代において，「名犬ラッシー」，「刑事コロンボ」，「奥様は魔女」，「大草原の小さな家」など，1960年代に放送されたアメリカドラマに対する関与が突出して高いことが認められた。このように，テレビ番組の嗜好には世代差が大きく，それぞれの世代が育ってきた時代背景が色濃く反映されていると考えられる。

外国の社会的出来事

1953年に日本のテレビ放送が開始されてから，外国の社会的出来事が映像の臨場感を伴って伝えられるようになり，一気に外国に対する心理的距離が縮まることとなった。テレビの存在が集合的記憶に密接に関連している社会的出来事としては，ケネディ米大統領の暗殺事件（1963），湾岸戦争（1991），米同時多発テロ事件（2001）などが挙げられる。ケネディ米大統領は，1963年11月22日に遊説先のテキサス州ダラスの市内をオープンカーでのパレード中に狙撃され，暗殺された。ちょうどこの日は，日米間で初のテレビ中継実験が行われており，衛星通信を通じて伝えられた最初のニュースとなったことも事件のインパクトを強めている。アメリカの放送局はこのときのパレードを撮影・中継していなかったが，アマチュアカメラマンのエイブラハム・ザプルーダーが撮影したサイレントの8mmフィルムにパレードの様子が26.6秒間（486コマ）記録されており，大統領暗殺

の瞬間を記録した映像として、後世に至るまで繰り返し放映されている。

湾岸戦争（1991）においては、テレビを利用した大規模なプロパガンダが行われ、多国籍軍ならびに親米派の国の報道は、完全にアメリカのコントロール下に置かれたことが指摘されている（川上，2004）。イラクを攻撃する多国籍軍が、民間施設や民間人への被害を避けていることを強調するために、軍事施設を狙ってピンポイントの攻撃を行っている映像が繰り返し放映されたが、一方で死体や流血の場面が一切報道されなかったことから、「テレビゲーム戦争」とも呼ばれた（池田，1993）。湾岸戦争は、戦場の様子がリアルタイムで中継された初めての戦争であると同時に、あからさまなテレビのプロパガンダをオーディエンスが実感した社会的出来事でもある（牧田，1991）。

米同時多発テロ事件の場合は、2001年9月11日、日本時間の22時ごろに発生しているが、ちょうどテレビ各局の夜のニュース番組の放送時間帯であった。1機目のアメリカン航空11便がニューヨークの世界貿易センタービル北棟に激突した映像をリアルタイムで放送した局はなかったが、このニュースのために各局は急きょ放送内容を切り替えており、直後に2機目のユナイテッド航空175便が南棟に激突した瞬間は、NHKの生放送でそのまま中継された。米同時多発テロは、その人的・物的被害の大きさのみならず、国際的・政治的インパクトにおいて後世に大きな影響を及ぼしており、発生の瞬間がリアルタイムで中継されたことは、集合的記憶の構築に大きく関与している。

本稿では、2010年2月に行われたウェブ調査から、外国の番組と外国の社会的出来事に関する記憶について分析した結果を報告する。なお、ウェブ調査の概要、テレビ視聴の実態については、萩原ら（2011）の報告を参照されたい。

▶ 結果と考察

外国番組の記憶

1) 外国番組の認知

「見たことのある外国番組」の世代別の単純集計結果を表1に示す。ここで挙げられている外国番組は、「なるほど！ザ・ワールド」や「世界ふしぎ発見」といった、外国をテーマにクイズ形式を中心とした日本制作のバラエティ番組と、「X ファイル」、「名犬ラッシー」、「冬のソナタ」といった日本に輸入された外国制作ドラマとに大別される。利用と満足研究の知見に倣えば、前者は競争的アピールや教育的アピールの魅力も有しているのに対して、後者は代理参加や情緒的解放の魅力が強いと考えられる。

特に認知数が高かったのは、「世界・ふしぎ発見」（TBS系列；1986年4月19日～現在）、「世界ウルルン滞在記」（TBS系列；1995年4月9日～2008年9月14日）、「ザ！世界仰天ニュース」（日本テレビ系列；2001年4月11日～現在）、「世界まる見え！テレビ特捜部」（日本テレビ系列；1990年7月9日～現在）、「世界の果てまでイッテQ！」（日本テレビ系列；2007年2月4日～現在）など、現在も放送中か、あるいはごく最近まで放送されていた日本のバラエティ番組が挙げられた。これらの番組は、総じてどの年代にも認知数が高いが、特に20～40代の認知数が高く、相対的に10代と60代の認知数が低い傾向が見られた。

次いで認知数が高かったのは、「なるほど！ザ・ワールド」（フジテレビ系列；1981年10月6日から1996年3月26日）、「世界まるごとHOWマッチ」（TBS系列；1983年4月7日から1990年4月5日）など、80年代に放送されていた日本のバラエティ番組で、これらは10代の認知数が大きく低下するものの、30代以上においては、前述した最近の日本のバラエティ番組とほぼ同じ認知数であった。

外国制作の番組で認知数が高かったのは、「奥様は魔女」、「名犬ラッシー」、「刑事コロ

●表 1 外国番組の認知									(単位：%)	
順位	番組名	10代	20代	30代	40代	50代	60代	全体	$\chi^2_{(5)}$	
1	世界・ふしぎ発見	64.4	85.6	86.4	83.5	78.4	75.4	79.0	55.26	***
2	世界ウルルン滞在記	52.3	77.7	81.3	78.3	65.5	58.0	68.9	90.31	***
3	なるほど！ザ・ワールド	18.2	68.6	89.0	90.8	79.2	63.6	68.4	441.70	***
4	ザ！世界仰天ニュース	70.8	79.9	76.5	74.3	62.5	43.6	68.0	108.20	***
5	世界まる見え！テレビ特捜部	67.0	80.7	83.5	70.6	53.4	40.2	66.0	162.20	***
6	世界の果てまでイッテQ！	61.0	74.2	72.1	68.8	48.5	36.0	60.2	125.80	***
7	世界まるごと HOW マッチ	10.2	33.3	82.7	87.5	71.6	54.2	56.9	496.10	***
8	奥さまは魔女	18.6	26.5	42.3	74.6	84.8	70.8	53.0	404.90	***
9	名犬ラッシー	15.9	29.9	51.8	66.5	80.7	68.9	52.4	329.90	***
10	刑事コロンボ	8.0	36.0	50.7	65.1	78.4	68.2	51.1	351.70	***
11	ここがヘンだよ！日本人	23.1	65.9	66.9	60.7	43.9	37.9	49.9	166.00	***
12	セサミストリート	31.8	51.1	54.8	61.0	51.1	31.1	46.9	83.09	***
13	X ファイル	16.3	51.5	57.0	55.9	51.1	39.8	45.4	127.90	***
14	あいのり	42.8	64.8	61.0	51.1	29.2	13.6	43.9	206.40	***
15	クイズ世界はSHOW by ショーバイ!!	4.9	43.9	79.0	65.1	40.2	18.6	42.3	421.20	***
16	大草原の小さな家	10.6	20.8	50.7	54.4	52.7	48.5	39.8	198.00	***
17	サンダーバード	11.7	29.2	38.6	58.5	64.4	34.1	39.5	209.60	***
18	チャーリーズ・エンジェル	14.4	27.3	37.1	46.7	54.9	32.2	35.5	119.10	***
19	兼高かおる世界の旅	1.1	1.5	23.2	52.9	65.2	65.9	35.0	534.80	***
20	ER 緊急救命室	11.0	29.5	43.0	40.1	44.7	35.2	34.0	92.61	***
21	逃亡者	4.5	16.3	25.7	25.4	56.4	62.9	31.8	320.90	***
22	冬のソナタ	20.1	29.2	32.0	34.9	38.3	35.6	31.7	25.69	***
23	世界！弾丸トラベラー	30.7	48.1	44.9	32.0	17.0	10.2	30.6	138.90	***
24	宮廷女官チャングムの誓い	20.1	23.1	23.5	24.3	34.5	38.6	27.3	36.41	***
25	宇宙大作戦／スタートレック	6.1	11.4	26.8	40.8	45.8	25.8	26.2	168.20	***
26	シャーロック・ホームズの冒険	4.9	15.2	27.9	30.9	35.2	36.0	25.1	108.20	***
27	24 -Twenty four-	16.7	30.7	36.8	29.4	20.1	14.4	24.8	56.81	***
28	コンバット	1.5	3.8	9.2	26.1	53.8	54.2	24.7	417.30	***
29	名探偵ポワロ	5.3	11.4	26.1	28.7	37.1	36.7	24.3	125.10	***
30	ビバリーヒルズ青春白書	5.3	26.1	37.1	25.0	26.1	23.9	24.0	77.79	***
31	怪傑ゾロ	3.4	5.3	9.9	14.3	48.9	44.7	21.0	328.70	***
32	ララミー牧場	0.4	0.4	1.1	7.0	49.2	60.2	19.6	635.00	***
33	ベン・ケーシー	0.4	0.4	2.6	7.0	43.6	62.9	19.3	618.10	***
34	刑事コジャック	0.8	0.8	7.4	29.8	40.9	29.9	18.3	269.10	***
35	0011 ナポレオン・ソロ	0.8	0.0	1.1	6.6	52.7	46.6	17.8	553.10	***
36	ローハイド	0.0	0.4	1.1	10.7	39.8	54.2	17.6	504.20	***
37	ツイン・ピークス	0.8	3.4	29.4	30.1	22.0	8.7	15.9	172.20	***
38	Sex and the City	8.7	22.7	19.9	15.8	16.7	9.8	15.6	30.27	***
39	ベストヒットUSA	6.1	6.8	16.9	32.4	15.9	8.7	14.6	106.10	***
40	サンセット77	0.4	0.4	0.0	2.6	32.2	50.0	14.1	508.10	***
41	アリー my LOVE	1.1	17.0	21.3	14.7	15.5	7.2	12.9	63.89	***
42	弁護士ペリー・メイスン	0.4	1.1	3.3	7.4	23.9	36.0	11.9	268.50	***
43	パパは何でも知っている	0.8	0.4	3.7	2.9	18.9	36.7	10.5	298.90	***
44	デスパレートな妻たち	3.8	9.1	16.2	11.8	11.7	10.2	10.5	23.46	***
45	名犬リンチンチン	0.0	0.8	0.7	1.5	26.1	29.2	9.6	296.10	***
46	太王四神記	4.9	4.9	8.5	9.9	15.2	14.0	9.6	29.15	***
47	世界痛快伝説!! 運命のダダダダーン	11.7	12.1	10.3	5.9	2.3	2.3	7.4	40.16	***
48	朱蒙	1.9	4.9	4.0	5.5	9.8	8.3	5.8	20.50	**
49	ダラス	11.4	4.2	2.9	2.2	4.2	5.3	5.0	51.35	***
50	ダイナステイ	0.0	1.1	2.2	7.0	9.8	8.7	4.8	24.89	***

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

ンボ」など、60～80年代に放送されていたアメリカドラマであるが、これらは、特に50代において認知数が突出して高い傾向が見られた。

一方、認知数が低かったのは、「弁護士ペリー・メイスン」、「パパは何でも知っている」、「名犬リンチンチン」、「ダラス」、「ダイナスティ」など、若年層がほとんど認知していない60～70年代のアメリカドラマ、「太王四神記」、「朱蒙」、「デスパレートな妻たち」など、どの年代にも総じて認知数の低い韓国の歴史ドラマや最近のアメリカドラマ、高年層がほとんど認知していない日本のバラエティの「世界痛快伝説!!運命のダダダダーン」であった。

(1) 外国番組の認知数による回答者の分類

外国番組30番組を、『60年代のアメリカドラマ』、『70～80年代の欧米ドラマ』、『90年代のアメリカドラマ』、『最近のアメリカドラマ』、『80～90年代の日本のバラエティ』、『最近の日本のバラエティ』、『最近の韓国ドラマ』の7ジャンルに分類し、ジャンル別に認知数を合計した変数を用いてクラスタ分析を行った。もっともクラスタの特徴が明確な4クラスタを採用し、クラスタを独立変数、それぞれの認知数を従属変数とする一元配置分散分析を行った(表2)。

多重比較の結果、『60年代のアメリカドラマ』、『70～80年代の欧米ドラマ』においては、すべてのクラスタ間に0.1%水準で有意差が認められた。すなわち、第4クラスタの認知数がもっとも多く、次いで第1クラスタ、第2クラスタと続き、第3クラスタの認知数がもっとも少なかった。一方、時代が下って『90年代のアメリカドラマ』、『最近のアメリカドラマ』においては、『最近のアメリカドラマ』における第2クラスタと第4クラスタのみ1%水準で、それ以外のすべてのクラスタ間に1%水準で有意差が認められた。すなわち、第1クラスタの認知数がもっとも多く、次いで第4クラスタが多く、第3クラスタがもっとも少なかった。第1クラスタと第4クラスタは、どちらもアメリカドラマに親和性が高いが、第1クラスタは90年代～最近のアメリカドラマ、第4クラスタは60～80年代の古

●表2 番組クラスタの分散分析

	第1クラスタ (男性=172, 女性=177)		第2クラスタ (男性=242, 女性=293)		第3クラスタ (男性=235, 女性=209)		第4クラスタ (男性=151, 女性=121)		$F_{(3,1596)}$	
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD		
60年代のアメリカドラマ	4.97	1.72	1.38	1.21	0.77	1.23	11.36	2.07	3385.624	***
70～80年代の欧米ドラマ	3.70	1.66	1.12	1.10	0.51	0.87	4.08	1.93	647.234	***
90年代のアメリカドラマ	1.93	1.43	0.81	1.05	0.22	0.53	1.52	1.43	178.756	***
最近のアメリカドラマ	1.58	1.22	0.97	1.01	0.30	0.64	1.25	1.17	115.230	***
80～90年代の日本のバラエティ	5.05	1.25	4.86	1.11	1.39	1.29	4.14	1.65	749.626	***
最近の日本のバラエティ	3.22	1.59	3.76	1.31	0.95	1.11	2.22	1.55	373.091	***
最近の韓国ドラマ	1.17	1.27	0.62	0.92	0.35	0.72	1.08	1.25	55.104	***
テレビ接触度	13.88	5.29	13.13	5.71	10.97	6.20	14.21	5.17	25.688	***
テレビ愛着度	2.71	0.69	2.64	0.74	2.42	0.73	2.58	0.61	12.529	***
テレビコンテンツ接触度	1.91	1.36	1.76	1.35	1.42	1.22	1.67	1.29	10.442	***
新聞閲読度	3.11	1.24	2.68	1.34	2.65	1.38	3.37	1.14	25.668	***
雑誌閲読度	1.92	0.84	1.87	0.86	1.81	0.86	1.72	0.83	3.316	*
ラジオ聴取度	2.05	1.22	1.67	1.04	1.74	1.12	2.26	1.28	20.542	***
インターネット利用度	3.60	1.07	3.60	1.16	3.49	1.27	3.57	1.12	0.873	n.s.
子どものころのテレビ熱中度	2.97	0.67	3.02	0.63	2.69	0.78	2.62	0.81	30.160	***
子どものころのテレビ視聴制限	2.46	0.67	2.39	0.65	2.20	0.71	2.25	0.72	12.977	***
子供のころのアメリカへのあこがれ	2.63	0.97	2.26	0.91	2.20	0.95	3.03	0.91	57.690	***
年齢	43.99	10.65	31.86	10.32	35.11	18.19	58.31	6.31	299.524	***

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

いアメリカドラマの認知数が多い点が異なる。

『80～90年代の日本のバラエティ』においては、第1クラスと第2クラスの間には有意差が認められなかったが、それ以外のすべてのクラス間に0.1%水準で有意差が認められた。すなわち、第1クラスと第2クラスの認知数が多く、次いで第4クラスが多く、第3クラスがもっとも少なかった。『最近の日本のバラエティ』においては、すべてのクラス間に0.1%水準で有意差が認められた。すなわち、第2クラスの認知数がもっとも多く、次いで第1クラスが多く、第3クラスがもっとも少なかった。『最近の韓国ドラマ』においては、第1クラスと第4クラスの間には有意差は認められなかったが、それ以外のすべてのクラス間に0.1%水準で有意差が認められた。すなわち、第1クラスと第4クラスの認知数が多く、第3クラスの認知数がもっとも少なかった。以上のことから、4つのクラスの特徴は以下のように説明することができる。まず、第1クラスは、全般に認知数が多く、テレビを積極的に視聴している層と考えられるが、特に『80～90年代の日本のバラエティ』と『最近の韓国ドラマ』の認知数が多かった。第2クラスは、『80～90年代の日本のバラエティ』、『最近の日本のバラエティ』の認知数がもっとも多く、アメリカドラマや韓国ドラマの認知数が少なかったことから、外国制作の番組に対する関心が薄く、日本のバラエティに親和的な層と考えられる。第3クラスは、すべての番組ジャンルの認知数が少なく、外国番組をほとんど視聴しない層と考えられる。第4クラスは60年代～現在までのアメリカドラマの認知数と、最近の韓国ドラマの認知数が多いが、日本のバラエティの認知数は少ないことから、外国制作の番組に関心が強い層と考えられる。

(2) クラスの特徴

次に、クラスの個人特性を比較するために、クラスを独立変数、「テレビ接触度」⁽¹⁾、「テレビ愛着度」⁽²⁾、「テレビコンテンツ接触度」⁽³⁾、「新聞閲読度」⁽⁴⁾、「雑誌閲読度」⁽⁵⁾、「ラジオ聴取度」⁽⁶⁾、「インターネット利用度」⁽⁷⁾、「子どものころのテレビ熱中度」⁽⁸⁾、「子どものころのテレビ視聴制限」⁽⁹⁾、「子どものころのアメリカへのあこがれ」⁽¹⁰⁾、年齢を従属変数とする一元配置分散分析を行った(表2)。

多重比較の結果、「テレビ接触度」においては、第3クラスとそれ以外のクラスとの間に、0.1水準で有意差が認められ、第3クラスのみ突出して低いことが明らかになった。「テレビ愛着度」においては、第3クラスと第1・2クラスとの間に0.1%水準で、第4クラスとの間に1%水準で有意差が認められ、第3クラスのみ突出して低いことが明らかになった。「テレビコンテンツ接触度」においては、第3クラスと第1・第2クラスの間に0.1%水準で有意差が認められ、このクラスの中では第3クラスがもっとも得点が低かった。「新聞閲読度」においては、第1クラスと第4クラスの間、第2クラスと第3クラスの間には有意差が認められなかったが、それ以外のすべてのクラス間に0.1%水準で有意差が認められた。すなわち、第1クラスと第4クラスは

脚注

1. 1週間にテレビを視聴する頻度と1回あたりの視聴時間の積を算出し、「テレビ接触度」とした。
2. 「テレビを見るのが好きだ」、「テレビを見るのは、大切な生活の一部になっている」など7項目を用いて、テレビに対する愛着を測定した。クロンバックの α 係数は.909であった。
3. 他メディアによるテレビコンテンツの視聴を測定した「ケーブルテレビに加入している」、「BSデジタル放送を見ている」、「有料のデジタル放送(スカパー、WOWWOWなど)を見ている」、「パソコンで通常のテレビ放送を見ている」、「携帯電話やモバイル機器でワンセグ放送を見ている」、「オンデマンド放送(NHK オンデマンドなど)を利用している」、「インターネットでのテレビ局の動画配信サービスを利用している」、「動画共

- 有サービス(ニコニコ動画、YouTubeなど)を利用している」の8項目(2件法)の得点を合計して分析に用いた。
4. 子どものころのテレビ視聴について尋ねた10項目について、因子分析(主因子法、Promax回転)を行ったところ、「夢中になってテレビを見ることがよくあった」、「テレビで見たことを友だちの間でよく話題にした」といった5項目で構成される「子どものころのテレビ熱中度」($\alpha=.849$)と、「親から見ることを禁止された番組があった」、「テレビを見すぎだと親から注意されたことがあった」といった5項目で構成される「子どものころのテレビ視聴制限」($\alpha=.755$)の2因子が抽出された。それぞれ、得点を合計して項目数で割ったものを尺度得点として分析に用いた。

新聞の閲読度が高く、第2クラスと第3クラスは低かった。「雑誌閲読度」においては、第1クラスと第4クラスの間には0.5%水準で有意差が認められ、第1クラスの得点の方が高かった。「ラジオ聴取度」においては、第1クラスと第4クラスの間、第2クラスと第3クラスの間には有意差が認められなかったが、第1クラスと第3クラスの間には1%水準で、それ以外のすべてのクラス間には0.1%水準で有意差が認められた。すなわち、「新聞閲読度」と同様に、第1クラスと第4クラスはラジオの聴取度が高く、第2クラスと第3クラスは低かった。「インターネット利用度」においては、クラス間で有意差は認められなかった。本研究の調査対象者がウェブ・モニターであり、全員がインターネット・ユーザーであることによるものと考えられる。

「子どものころのテレビ熱中度」においては、第1クラスと第2クラス、第3クラスと第4クラスの間にはそれぞれ有意差が認められなかったが、それ以外のすべてのクラス間には0.1%水準で有意差が認められた。すなわち、子どものころにテレビに熱中していた第1・第2クラスと、あまり熱中していなかった第3・第4クラスに二分される。「子どものころのテレビ視聴制限」においては、第1クラスと第2クラス、第3クラスと第4クラスの間にはそれぞれ有意差が認められなかったが、第2クラスと第4クラスの間には5%水準で、それ以外のすべてのクラス間には0.1%水準で有意差が認められた。すなわち、「子どものころのテレビ熱中度」と同様に、子ども時代に親からテレビ視聴を制限されていた第1・第2クラスと、あまり制限されていなかった第3・第4クラスに二分される。このことは、第3・第4クラスが、子ども時代にテレビ視聴を制限されていなかったというよりも、もともとテレビをあまり視聴していなかったために、制限される体験もなかったと解釈される。「子どものころのアメリカへのあこがれ」においては、第2クラスと第3クラスの間には有意差が認められなかったが、それ以外のすべてのクラス間には0.1%水準で有意差が認められた。すなわち、第4クラスの得点をもっとも高く、次いで第1クラスが高く、第2クラスと第3クラスは低いことが明らかになった。

年齢においては、すべてのクラス間には0.1%水準で有意差が認められ、第4クラス、第1クラス、第3クラス、第2クラスの順に年齢が下がっていくことが明らかになった。しかしながら、各クラスの年齢分布を確認すると、比較的若年層の中でも、第2クラスは10～40代に分散しているのに対して、第3クラスは10代に突出した山がある。一方、比較的高年層の中でも、第1クラスは幅広い年代に分散しているが、第4クラスは、40代以上、特に60代に集中していることがわかる（図1）。これらのことから、第1クラスと第2クラスは、特定の年代のみに特徴的な層ではなく、幅広い世代によって外国番組が共有されていることを示唆している。また、各クラスの男女の内訳を比較したところ、有意差が認められ（ $\chi^2_{(3)}=9.765, p<.05$ ）、残差分析の結果、第2クラスは女性、第4クラスは男性が多かった（ $d=2.70, p<.01; d=2.00, p<.05$ ）。

これらの個人特性の特徴を総括すると、第1クラスは、男女とも幅広い年代に分布しており、子ども時代からテレビに熱中していて、現在のテレビ接触も高い。第2クラスは、子ども時代からテレビに熱中していて、現在のテレビ接触も高い点では、第1クラスと類似しているが、第1クラスよりは10～40代のやや若年層で、女性が多く、また、子ども時代のアメリカへのあこがれが強いことが相違点である。

第3クラスは、男女とも10代を中心とする若年層で、子ども時代から現在に至るまで、オンデマンドやBS放送などの利用も含めて、テレビとの関わりが希薄であると考えられる。また、「新聞閲読度」や「ラジオ聴取度」も低く、ほとんどのメディアにおいて利用度が低いことが特徴である。第4クラスは40代以上の高年層で、男性が多く、子ども時代はテレビにそれほど親和的ではなかったが、現在のテレビ接触度は高い。また、子ど

図1 番組クラスターの年齢分布

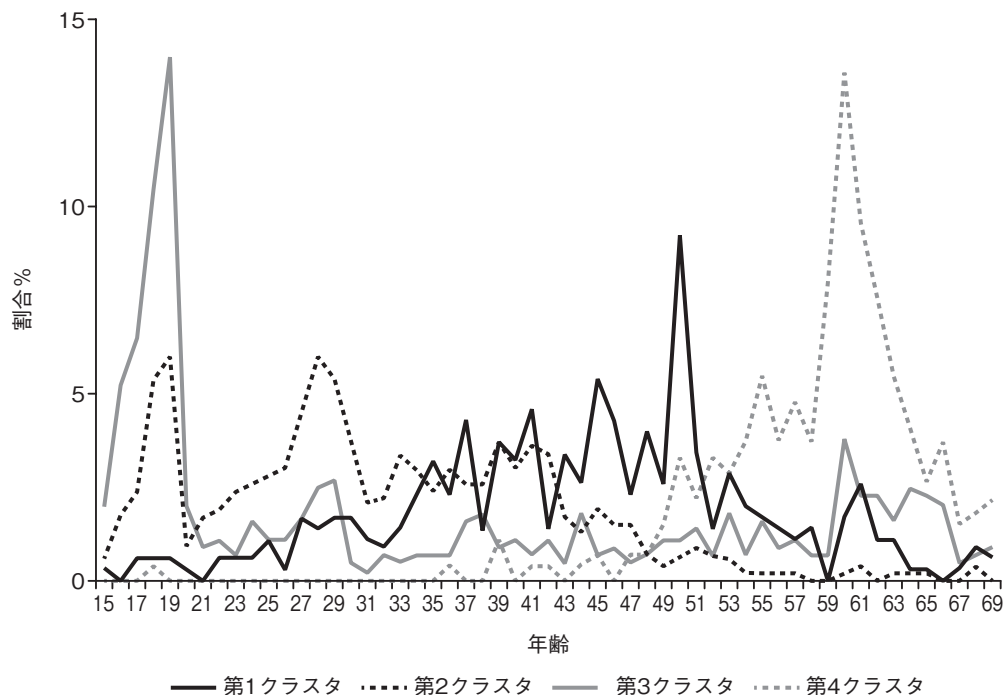


Figure
&
Table

も時代にアメリカに強い憧憬を抱いていた層であると考えられる。

(3) 外国番組の認知と個人特性との関連

外国番組のジャンル別の認知数と、個人特性との関連を総括すると、以下のように考察される。まず、外国番組に親和的なのは、第1クラスターと第4クラスターである。いずれも「最近の韓国ドラマ」の認知数が多く、現在の「テレビ接触度」が高く、「新聞閲読度」および「ラジオ聴取度」も高く、「子どものころのアメリカへのあこがれ」が強い、やや高年齢層であることが共通している。相違点としては、第1クラスターは、アメリカドラマの中では、90年代～最近の番組の認知数が多いこと、日本のバラエティ番組の認知数も多いこと、比較的幅広い年代に分散していて、子どものころからテレビに親和的であるのに対して、第4クラスターは、アメリカドラマの中では、60年代～80年代の古い時代の番組の認知数が多いこと、40代以上に集中しており、子ども時代のテレビ視聴が少ない点が挙げられる。第4クラスターにおいて、子ども時代のテレビ視聴が少ないのは、この年代が幼少期にはまだテレビが普及していなかったという環境的要因によるものと考えられる。これらのことから、最近の韓国ドラマの視聴層は、最近のアメリカドラマも嗜好する幅広い年代層と、60～80年代の古い時代のアメリカドラマを嗜好する中高年齢層に二分されると考えられる。

一方、第2クラスターと第3クラスターは、平均年齢が30代の比較的若年層で、アメリカドラマや韓国ドラマなど、外国制作の番組に対して関心が薄いことが共通している。子どものころのアメリカへのあこがれも低い。相違点は、第2クラスターは、10～40代を中心としながらも相対的に幅広い世代に分散していて、子どものころから現在に至るまでテレビに親和的であり、日本のバラエティ番組の認知数が多いのに対して、第3クラスターは10代の若年層の割合が第2クラスターよりも多く、過去も現在もテレビに対して無関心な点である。すなわち、どちらも外国に対して関心が薄い、テレビには親和的で日本制作の番組を嗜好する幅広い年代層と、テレビ自体に無関心な若年層とに二分される。

2) もう一度見たい外国番組

前述の「見たことのある外国番組」のうち、さらに「もう一度見たい番組」を3つまで選択させた。1位を3点、2位を2点、3位を1点として得点化し、合計得点を年代別に算出した(表3)。ポイントが高いほど、「もう一度見たい」という評価が高いことを示す。

総じて、10～50代に共通しているのは、「なるほど!ザ・ワールド」、「クイズ世界はSHOW by ショーバイ!!」といった『日本のバラエティ』、「Xファイル」、「24-Twenty four-」といった『最近のアメリカドラマ』が上位に挙げられていることである。一方、40代と50代においては「冬のソナタ」、「太王四神記」といった『最近の韓国ドラマ』が、60代においては「チャーリーズ・エンジェル」、「シャーロック・ホームズの冒険」といった『60～80年代の欧米ドラマ』、「ララミー牧場」や「0011 ナポレオン・ソロ」といった『60年代のアメリカドラマ』が上位に挙げられていることは、それぞれの年代の特徴である。

さらに、年代の変数を投入して男女別に数量化Ⅲ類を行った(図2-1～2-2)。男女の共通点は以下の通りである。まず、10代・20代の若年層においては、「世界の果てまでイッテQ!」、「ザ!世界仰天ニュース」といった『最近の日本のバラエティ』が多く挙げられたが、30代・40代においては「なるほど!ザ・ワールド」、「クイズ世界はSHOW by ショーバイ!」といった『80年代の日本のバラエティ』、「ビバリーヒルズ青春白書」、「ツイン・ピークス」といった『90年代のアメリカドラマ』、「デスパレードな妻たち」、「アリー myLOVE」、「ER 救急救命室」といった『最近のアメリカドラマ』が混在している。また、50代においては「奥様は魔女」、「刑事コロンボ」、「宇宙大作戦/スタートレック」、「名探偵ポワロ」、「シャーロック・ホームズの冒険」といった『60～70年代の欧米ドラマ』と、「冬のソナタ」、「宮廷女官チャングムの誓い」といった『最近の韓国ドラマ』が混在している。一方、60代では「名犬ラッシー」、「逃亡者」、「コンバット」、「ベン・ケーシー」といった『60年代のアメリカドラマ』が多い。

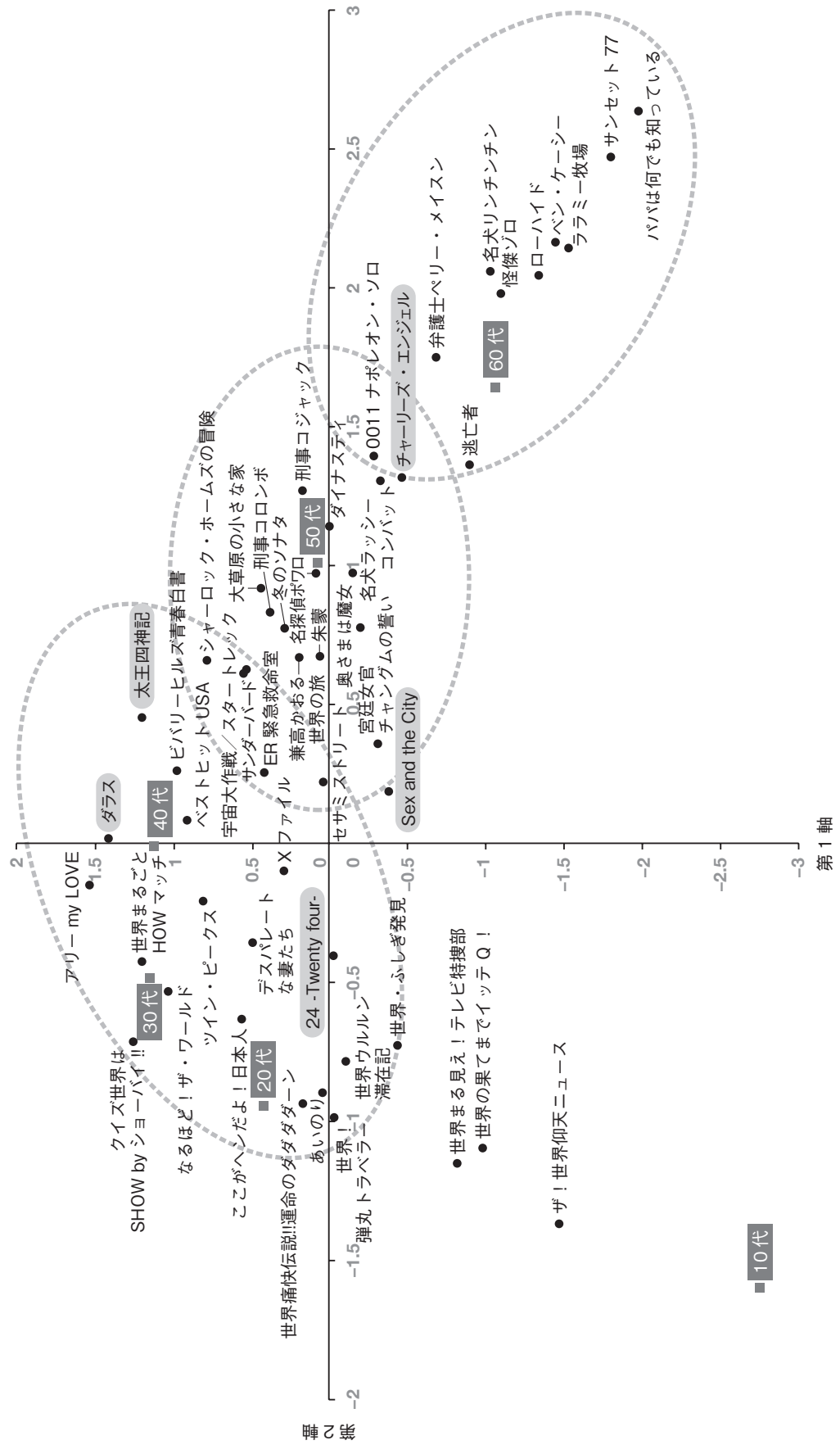
一方、男女の相違点は以下の通りである。男性の場合は、10代だけが独立しているのに対して、20代・30代・40代が外国番組の記憶を共有する傾向があるが、女性の場合は、大別して10代・20代と、30代・40代の2群の構造である。アメリカドラマの中でも、「Sex and the City」は、30代～40代の女性が支持しているのに対して、「24-Twenty Four」は20代男性、30代女性が支持している。「チャーリーズ・エンジェル」は50代男性、30代女性が、「ダラス」は40代男性、60代女性が、「太王四神記」は40代男性、50代女性がそれぞれ支持する傾向が見られた。

以上のことから、10代・20代と60代においては、青年期を過ごした時代と番組の記憶がほぼ対応しており、バンブ現象が認められた。一方、30代・40代は新旧・国内外の番組が混在しており、長期にわたってテレビに親和性が高いと見られる。このことは、テレビ視聴が一般化した1970～80年代に子ども時代を過ごした現在の30代・40代は、他の年代に比してテレビに対する親和性が高いこと(小城ほか, 2010)とも一致する。また、50代においては『60～70年代の欧米ドラマ』とともに『最近の韓国ドラマ』が挙げられており、この両者には伝統的性役割や典型的なストーリーといった点で共通性があると考えられる。このことは、最近の体験であっても、バンブと類似性が高い場合には新近性効果が生起する可能性があるという指摘(小城ほか, 2010)とも整合的である。

外国の社会的出来事の記憶

1) 外国の社会的出来事の認知

「知っている外国の社会的出来事」の世代別の単純集計結果を表4に示す。総じて、どの年代にも認知数が高かったのは、「スマトラ島沖地震・津波被害(2001)」、「ベルリンの壁崩壊(1989)」、「米国同時多発テロ事件(2001)」、「日韓共催サッカー・ワールドカップ



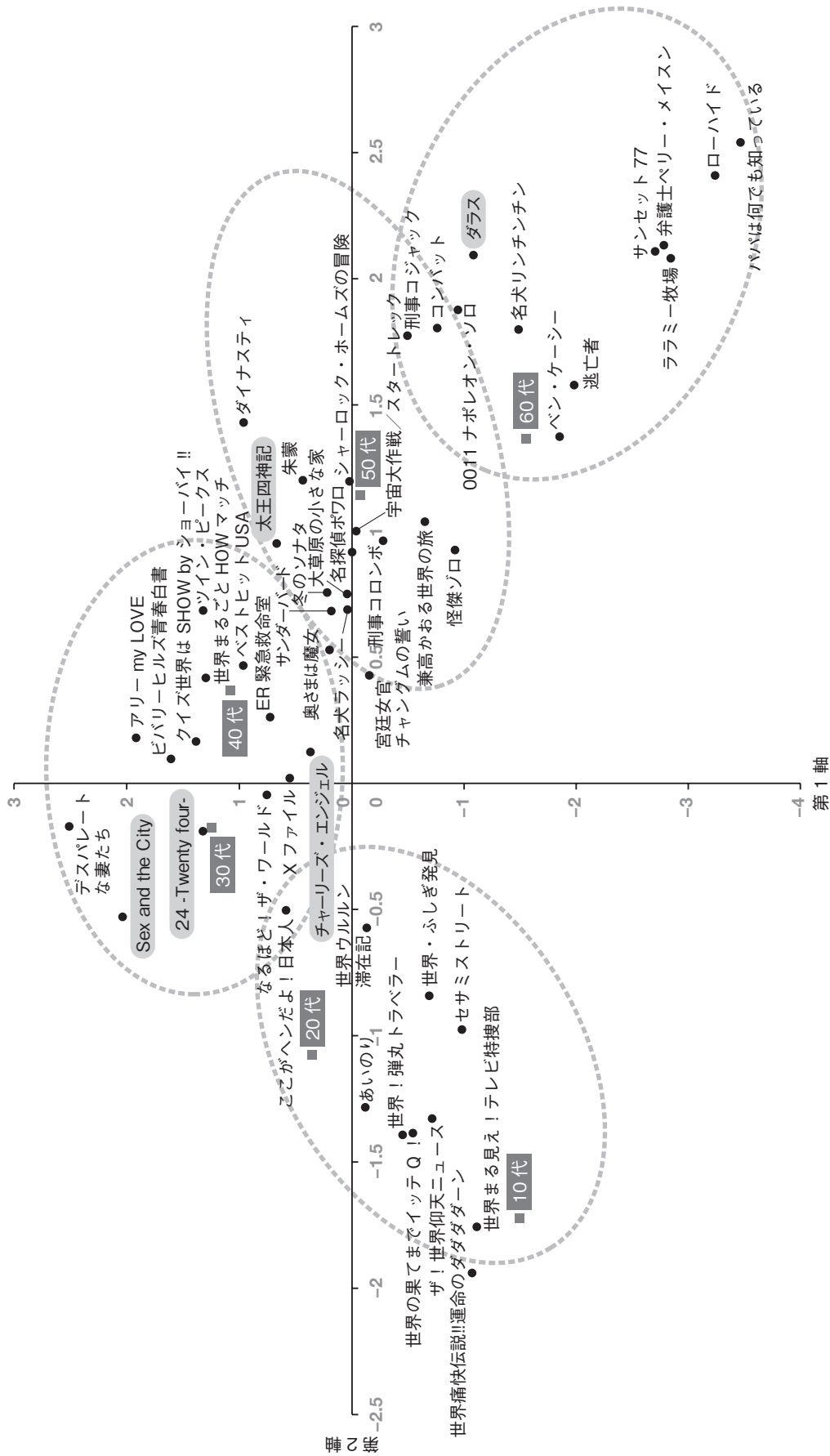


図 2-2 「もう一度見たい外国番組」数量化Ⅲ類プロット (女性)

●表3 もう一度見たい番組単純集計 (単位：ポイント)

順位	番組名	10代	20代	30代	40代	50代	60代	全体
1	なるほど！ザ・ワールド	25	103	156	129	73	35	521
2	世界まるごと HOW マッチ	83	124	80	53	32	53	425
3	世界の果てまでイッテQ！	170	91	62	52	21	8	404
4	クイズ世界はSHOW by ショーバイ!!	11	27	106	151	56	24	375
5	世界まる見え！テレビ特捜部	168	86	47	23	22	17	363
6	世界・ふしぎ発見	96	88	53	41	36	46	360
7	世界ウルルン滞在記	156	101	47	17	10	7	338
8	X ファイル	11	93	109	60	28	8	309
9	ここがヘンだよ！日本人	30	66	51	64	54	31	296
10	刑事コロンボ	7	26	35	69	54	86	277
11	宇宙大作戦／スタートレック	20	3	59	48	62	78	270
12	サンダーバード	30	12	44	75	62	45	268
13	24-Twenty-four-	85	86	62	24	7	3	267
14	ザ！世界仰天ニュース	28	92	67	32	18	19	256
15	兼高かおる世界の旅	0	0	25	50	66	99	240
16	あいのり	34	64	58	33	19	16	224
17	0011 ナポレオン・ソロ	11	39	42	50	39	37	218
18	コンバット	34	9	25	26	37	64	195
19	奥さまは魔女	9	25	31	30	53	45	193
20	名犬ラッシー	9	9	16	63	55	20	172
21	ローハイド	7	5	17	66	65	5	165
22	ER 緊急救命室	2	10	11	28	52	37	140
23	逃亡者	6	19	29	22	39	20	135
24	シャーロック・ホームズの冒険	5	7	23	14	31	40	120
25	名探偵ポワロ	29	43	16	20	2	5	115
26	大草原の小さな家	2	0	1	0	81	30	114
27	ベストヒット USA	3	4	5	12	22	64	110
28	世界！弾丸トラベラー	1	22	34	19	19	5	100
29	宮廷女官チャングムの誓い	0	0	5	15	51	24	95
30	チャーリーズ・エンジェル	6	9	7	26	25	20	93
31	ララミー牧場	0	0	0	2	13	74	89
32	ベン・ケーシー	6	1	11	45	12	5	80
33	ビバリーヒルズ青春白書	9	30	17	3	6	5	70
34	冬のソナタ	3	14	20	15	11	2	65
35	朱蒙	0	0	0	0	16	45	61
36	刑事コジャック	3	3	19	16	13	5	59
37	怪傑ゾロ	0	0	0	0	16	41	57
38	サンセット 77	3	19	17	10	1	4	54
39	ツイン・ピークス	0	0	0	0	15	38	53
40	名犬リンチンチン	3	0	13	6	16	14	52
41	セックス・アンド・ザ・シティ	3	4	0	3	16	18	44
42	弁護士ペリー・メイスン	18	13	4	6	0	1	42
43	セサミストリート	0	0	0	3	8	20	31
44	デスパレートな妻たち	0	0	1	5	10	15	31
45	アリー my ラブ	0	1	4	6	9	4	24
46	世界痛快伝説!! 運命のダダダダーン	14	5	4	0	0	0	23
47	太王四神記	0	0	0	0	16	7	23
48	パパは何でも知っている	0	0	0	0	8	9	17
49	ダラス	0	0	3	3	3	2	11
50	ダイナスティ	0	2	1	2	0	3	8

(2002)」といった最近の出来事であった。最近の出来事であっても、30代以降の方がより認知数が高いことから、10～20代の若年層においては、そもそも社会的な出来事に対する関心が低い可能性がある。

また、次いで「アポロ11号月面着陸(1969)」、「ケネディ米大統領暗殺事件(1963)」、「ビートルズ来日(1966)」といった1960年代の出来事も上位に挙がっていることが特徴である。年代差はあるものの、リアルタイムで体験していない若年層においても相対的に認知数が高く、これらの出来事がきわめて大きなインパクトを有していることを示唆している。

(1) 外国の社会的出来事の認知数による回答者の分類

外国の社会的出来事50項目を、欧米と欧米以外、さらに時代を新旧で2分割し、『古い社会的出来事(欧米)』(1963～1981)、『古い社会的出来事(欧米以外)』(1967～1983)、『新

順位	社会的出来事	10代	20代	30代	40代	50代	60代	全体	$\chi^2_{(5)}$	
1	スマトラ島沖地震・津波被害(2004)	63.3	73.5	76.8	83.1	75.8	77.7	75.1	30.84	***
2	ベルリンの壁崩壊(1989)	31.1	58.3	81.6	88.6	83.7	86.4	71.8	336.70	***
3	日韓共催サッカー・ワールドカップ(2002)	50.0	69.3	74.6	78.3	71.2	69.7	68.9	60.22	***
4	米国同時多発テロ事件(2001)	55.3	68.6	69.1	70.6	70.5	78.4	68.8	34.49	***
5	アポロ11号月面着陸(1969)	28.4	54.5	60.7	65.8	88.6	90.2	64.7	307.30	***
6	ケネディ米大統領暗殺事件(1963)	29.2	53.0	64.7	60.3	82.2	90.9	63.4	273.10	***
7	英チャールズ皇太子、ダイアナ妃と結婚(1981)	15.5	45.5	62.9	82.0	79.2	79.5	60.9	381.30	***
8	ビートルズ来日(1966)	24.2	51.5	62.1	61.4	78.8	82.2	60.1	242.50	***
9	チェルノブイリ原発事故(1986)	12.5	35.6	66.5	75.4	75.0	71.2	56.2	364.80	***
10	中国・天安門事件(1989)	9.8	32.2	64.7	71.0	73.5	76.5	54.8	396.60	***
11	大韓航空機爆破事件(1983)	9.8	22.0	55.5	79.0	76.1	81.4	54.1	517.40	***
12	クリントン米大統領の不倫騒動(1998)	9.5	45.1	56.6	65.8	62.5	67.0	51.2	254.40	***
13	イラク武装勢力による日本民間人質事件(2004)	34.1	52.7	54.0	57.4	52.3	53.8	50.8	36.84	***
14	サダム・フセイン元イラク大統領の処刑(2006)	26.5	44.3	52.6	55.9	56.4	65.9	50.3	97.18	***
15	ペルー日本大使公邸事件(1996)	4.5	28.8	48.2	57.7	66.3	71.2	46.2	340.80	***
16	イラクのクウェート侵攻・湾岸戦争勃発(1991)	5.7	33.0	59.6	61.4	53.4	62.5	46.1	271.70	***
17	米スペースシャトル(チャレンジャー)爆発事故(1986)	5.7	22.0	48.2	67.6	61.7	64.4	45.1	348.90	***
18	ソ連崩壊(共産党支配に終止符)(1991)	7.6	31.1	54.4	57.0	54.5	62.9	44.7	239.70	***
19	香港、中国に返還(1997)	5.3	40.5	48.9	53.3	48.5	56.1	42.2	191.50	***
20	イラン・イラク全面戦争開始(1980)	6.1	15.5	35.3	43.0	53.4	51.1	34.1	220.50	***
21	南北朝鮮首脳初の会談(2000)	11.7	32.2	34.6	39.3	34.8	39.0	32.0	64.30	***
22	ルーマニアのチャウシェスク大統領夫妻の処刑(1989)	2.3	4.2	32.7	41.5	42.4	47.7	28.6	263.60	***
23	マニラ空港でのベニグノ・アキノ氏暗殺事件(1983)	1.9	4.9	24.6	44.5	43.9	47.3	27.9	279.80	***
24	マルコス比大統領夫妻マラカニアン宮殿追放(1986)	0.8	2.3	20.2	41.9	45.5	54.5	27.6	353.60	***
25	キング牧師暗殺(1968)	8.3	11.7	19.1	22.8	29.5	48.9	23.4	157.50	***
26	フォークランド紛争(1982)	1.1	2.7	10.7	34.9	33.3	34.5	19.6	228.50	***
27	テルアビブ空港乱射事件(1972)	0.4	1.5	5.5	10.3	36.4	47.7	16.9	379.70	***
28	第3次中東戦争(6日戦争)(1967)	2.3	7.6	11.4	15.1	26.5	34.8	16.3	145.00	***
29	サイゴン陥落、ベトナム戦争終結(1975)	2.3	4.9	9.9	15.1	26.5	38.6	16.2	189.30	***
30	韓国朴正熙大統領暗殺事件(1979)	0.4	1.9	5.5	13.2	22.3	36.0	13.2	220.40	***

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

●表 5 社会的出来事クラスターの分散分析

	第 1 クラスター (男性 =274, 女性 =285)		第 2 クラスター (男性 =86, 女性 =54)		第 3 クラスター (男性 =183, 女性 =252)		第 4 クラスター (男性 =257, 女性 =209)		$F_{(3,1596)}$	
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD		
60 年代のアメリカドラマ	1.08	1.36	0.91	1.00	4.08	0.79	5.21	1.49	1171.000	***
70 ～ 80 年代の欧米ドラマ	0.24	0.54	0.59	0.77	1.49	1.05	3.73	1.60	915.596	***
90 年代のアメリカドラマ	1.02	1.03	3.56	1.67	4.15	1.30	6.40	0.78	1992.000	***
最近のアメリカドラマ	1.35	1.25	5.96	1.65	4.94	1.50	8.94	1.09	2829.000	***
80 ～ 90 年代の日本のバラエティ	11.15	6.18	12.34	5.81	13.63	5.52	14.41	5.00	31.931	***
最近の日本のバラエティ	2.51	0.76	2.55	0.70	2.62	0.71	2.66	0.66	4.517	**
韓国ドラマ	1.49	1.31	1.86	1.32	1.68	1.27	1.86	1.34	7.840	***
テレビ接触度	2.44	1.36	2.89	1.29	3.00	1.29	3.30	1.17	39.651	***
テレビ愛着度	1.84	0.90	1.96	0.88	1.78	0.77	1.84	0.85	1.627	n.s.
テレビコンテンツ接触度	1.66	1.08	1.68	1.02	1.98	1.20	2.08	1.22	13.869	***
新聞閲読度	3.47	1.26	3.60	1.09	3.61	1.11	3.63	1.12	1.918	n.s.
雑誌閲読度	2.87	0.70	2.96	0.60	2.79	0.72	2.84	0.80	2.141	n.s.
ラジオ聴取度	2.31	0.69	2.36	0.66	2.30	0.66	2.36	0.72	0.773	n.s.
インターネット利用度	2.17	0.93	2.31	0.92	2.54	0.94	2.77	0.99	36.734	***
子どものころのテレビ熱中度	31.36	15.17	34.82	11.84	42.70	14.72	49.06	12.08	149.226	***
子どものころのテレビ視聴制限	1.08	1.36	0.91	1.00	4.08	0.79	5.21	1.49	1171.000	***
子供のころのアメリカへのあこがれ	0.24	0.54	0.59	0.77	1.49	1.05	3.73	1.60	915.596	***
年齢	1.02	1.03	3.56	1.67	4.15	1.30	6.40	0.78	1992.000	***

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

Figure
&
Table

しい社会的出来事（欧米）』（1986～2001）,『新しい社会的出来事（欧米以外）』（1986～2006）の4ジャンルに再コーディングした。ジャンル別に認知数を合計した変数を用いてクラスター分析を行い、もっともクラスターの特徴が明確な4クラスターを採用した。クラスターを独立変数、それぞれの認知数を従属変数とする一元配置分散分析を行った（表5）。

多重比較の結果、『古い社会的出来事（欧米）』においては、第1クラスターと第2クラスターには有意差が認められなかったが、それ以外のすべてのクラスター間に0.1%水準で有意差が認められた。すなわち、第4クラスターの認知数がもっとも多く、次いで第3クラスターが多く、第1クラスターと第2クラスターの認知数は少なかった。『古い社会的出来事（欧米以外）』においては、第1クラスターと第2クラスターの間にのみ1%水準で、それ以外のすべてのクラスター間に0.1%水準で有意差が認められた。すなわち、第4クラスターの認知数がもっとも多く、次いで第3クラスター、第2クラスター、第1クラスターの順に認知数が下がっていくことが明らかになった。『新しい社会的出来事（欧米）』においては、すべてのクラスター間に0.1%水準で有意差が認められ、第4クラスター、第3クラスター、第2クラスター、第1クラスターの順に認知数が下がっていくことが明らかになった。『新しい社会的出来事（欧米以外）』においては、すべてのクラスター間に0.1%水準で有意差が認められた。すなわち、第4クラスターの認知数がもっとも多く、次いで、第2クラスター、第3クラスター、第1クラスターの順に下がっていくことが明らかになった。

以上のことから、4つのクラスターの特徴は以下のように説明することができる。まず、欧米・欧米以外、あるいは時代の新旧を問わず、すべての社会的出来事において認知数がもっとも多いのは第4クラスターである。第3クラスターは、第4クラスターに次いで認知数が多いものの、『新しい社会的出来事（欧米以外）』は認知数が少なかった。第2クラスターは全般に認知数が少ないが、『新しい社会的出来事（欧米以外）』のみ、第4クラスターに次い

で認知数が多かった。最後に、第1クラスはすべての社会的出来事において認知数が少なかった。

(2) クラスタの特徴

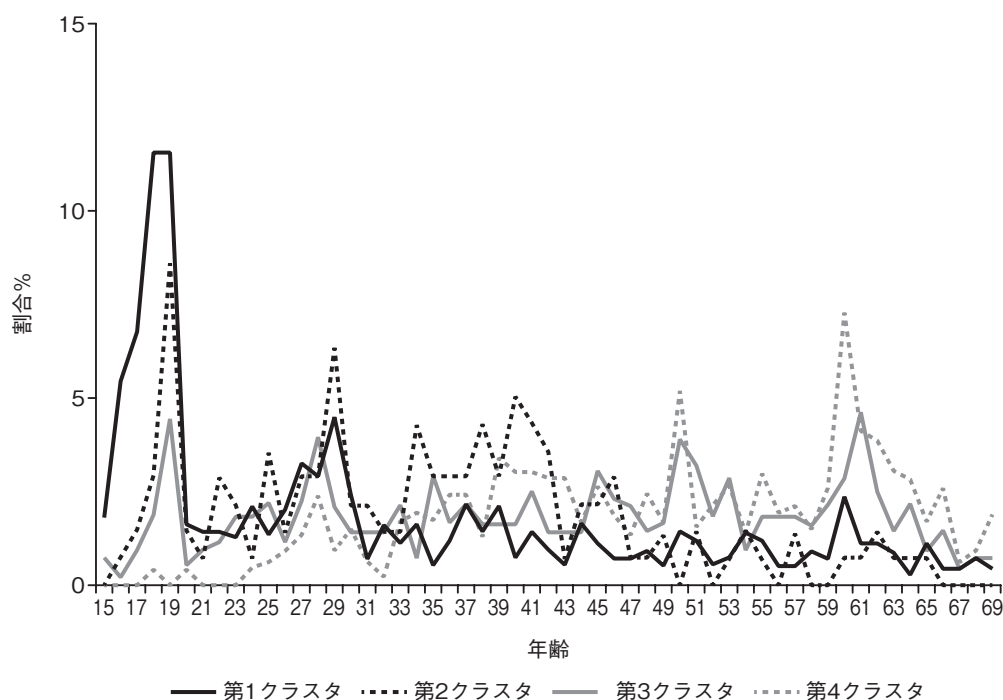
次に、クラスタの個人特性を比較するために、クラスタを独立変数、「テレビ接触度」、「テレビ愛着度」、「テレビコンテンツ接触度」、「新聞閲読度」、「雑誌閲読度」、「ラジオ聴取度」、「インターネット利用度」、「子どものころのテレビ熱中度」、「子どものころのテレビ視聴制限」、「子どものころのアメリカへのあこがれ」、年齢を従属変数とする一元配置分散分析を行った(表5)。従属変数の尺度化は、前述の外国番組と同様である。

多重比較の結果、「テレビ接触度」においては、第1クラスと第2クラスの間、第2クラスと第3クラスの間、第3クラスと第4クラスの間にはそれぞれ有意差が認められなかったが、それ以外のすべてのクラスタ間に0.1%水準で有意差が認められた。すなわち、第4クラスがもっとも高く、第1クラスがもっとも低い、その中間に第3クラスと第2クラスが位置しているといえる。「テレビ愛着度」においては、第1クラスと第4クラスとの間に1%水準で有意差が認められ、第4クラスの方が高いことが明らかになった。「テレビコンテンツ接触度」においては、第1クラスと第2クラスとの間に5%で、第1クラスと第4クラスとの間に0.1%水準で、それぞれ有意差が認められた。すなわち、第2クラスと第4クラスの得点が高く、第1クラスが低いことが明らかになった。「新聞閲読度」においては第2クラスと第3クラスの間には有意差は認められなかったが、第1クラスと第2クラスの間、第4クラスと第2クラス・第3クラスとの間にそれぞれ1%水準で、それ以外のすべてのクラスタの間に0.1%水準で有意差が認められた。すなわち、第4クラスの得点が高くて、次いで第2クラスと第3クラスが高く、第1クラスの得点が高くて低かった。「雑誌閲読度」においては、クラスタ間に有意差は認められなかった。「ラジオ聴取度」においては、第1クラスと第3クラス・第4クラスとの間に0.1%水準で、第2クラスと第3クラスとの間に5%水準で、第2クラスと第4クラスとの間に1%水準で、それぞれ有意差が認められた。すなわち、第3クラスと第4クラスの得点が高く、第1クラスと第2クラスの得点が高いことが明らかになった。「インターネット利用度」においては、クラスタ間で有意差は認められなかった。番組の認知と同様、本研究の調査対象者がウェブ・モニターであり、全員がインターネット・ユーザーであることによるものと考えられる。

「子どものころのテレビ熱中度」および「子どものころのテレビ視聴制限」においては、クラスタによる有意差は認められなかった。「子どものころのアメリカへのあこがれ」においては、第2クラスと第1・第3クラスの間には有意差が認められなかったが、第3クラスと第4クラスの間には1%水準で、それ以外のすべてのクラスタ間に0.1%水準で有意差が認められた。すなわち、第4クラスの得点が高くて、次いで第3クラスが高く、第1クラスはもっとも低いことが明らかになった。

年齢においては、第1クラスと第2クラスとの間に5%水準で、それ以外のすべてのクラスタ間に0.1%水準で有意差が認められ、第4クラス、第3クラス、第2クラス、第1クラスの順に年齢が下がることが明らかになった。しかしながら、各クラスタの年齢分布を確認すると(図3)、第1クラスは10代に突出した山があり、全体に若年層に偏っているのに対して、一方、第4クラスは10代がほとんどおらず、30代後半以降、特に60代に集中する傾向が見られる。ところが、第2クラスは40代以下に、第3クラスはほぼすべての年代に平均的に分散しており、第2クラスと第3クラスは特定の年代のみに特徴的な層ではないことが示唆される。また、各クラスタの男女の内訳を比較したところ、有意差が認められ($\chi^2_{(3)}=23.420, p<.001$)、残差分析の結果、第2クラス、第4クラスは男性が多く、第3クラスは女性が多かった($d=2.83, p<.01; d=2.64, p<.01; d=3.88, p<.01$)。

図3 社会的出来事クラスターの年齢分布



これらの個人特性の特徴を総括すると、第1クラスタは、男女とも若年層を中心としており、現在の「テレビ接触度」および「愛着度」、「テレビコンテンツ接触度」が低かった。「新聞閲読度」も「ラジオ聴取度」も全クラスタの中でもっとも低いことから、メディア接触が希薄な層と考えられる。また、子どものころのアメリカへのあこがれも低かった。第2クラスタは、50代以上が少ないものの、幅広い年代に広く分散しており、男性が多かった。また、現在の「テレビ接触度」および「愛着度」、「新聞閲読度」は中程度であったが、「ラジオ聴取度」は低かった。子どものころのアメリカへのあこがれも低かった。第3クラスタは、女性が多く、幅広い世代に分布しており、現在の「テレビ接触度」および「愛着度」、「テレビコンテンツ接触度」、「新聞閲読度」は中程度であったが、「ラジオ聴取度」は高かった。「子どものころのアメリカへのあこがれ」はやや高かった。第2クラスタと第3クラスタは、比較的幅広い年代に分布しており、現在の「テレビ接触度」および「愛着度」、「テレビコンテンツ接触度」、「新聞閲読度」もほぼ同程度である点では類似しているが、第2クラスタは男性が多く、40代以下のやや若年層が多いのに対して、第3クラスタは女性が多く、若年層から高年層にまで幅広く分布しており、「ラジオ聴取度」が高い点で異なっている。第4クラスタは、30代後半以降を中心とする高年層で、男性が多く、現在の「テレビ接触度」および「愛着度」、「テレビコンテンツ接触度」、「新聞閲読度」、「ラジオ聴取度」が高いことから、もっともメディア接触が高い層と考えられる。「子どものころのアメリカへのあこがれ」も、もっとも高かった。

(3) 外国の社会的出来事の認知と個人特性との関連

外国の社会的出来事の認知数と、個人特性との関連を総括すると、以下のように考察される。まず、欧米・欧米以外、時代の新旧を問わず、もっとも認知数の多い第4クラスは、30代後半以降を中心とする高年層で、男性が多く、テレビのみならず、新聞やラジオなど、さまざまなメディアへの接触度が高い。また、子ども時代にアメリカに対して強い憧憬を抱いている。このことは、テレビを初めとして、さまざまなメディアへの高い関与が社会的出

来事の記憶を規定しているという解釈と、社会的出来事の記憶における世代差や性差によるもの、すなわち、人生経験が長い高年層や、相対的に社会経験の多い男性が社会への関心も強いために社会的出来事の認知数が多く、こうした高年層ほどテレビや新聞などのメディアに親和的であるために関連が見られたにすぎない、という解釈の二つが考えられる。

次に認知数が多いのは第3クラスタ、次いで第2クラスタであるが、『欧米以外の最近の社会的出来事』のみ、第3クラスタよりも第2クラスタの認知数が多かった。個人特性の比較では、現在の「テレビ接触度」や「テレビ愛着度」、「テレビコンテンツ接触度」、「新聞閲読度」において2つのクラスタに差異はなく、特徴がきわめて類似している。この2つのクラスタで差異が見られた個人特性は「ラジオ聴取度」で、第3クラスタの方が高かったが、ラジオが外国の社会的出来事を積極的に放送しているというよりは、「ラジオ聴取度」をメディアに対する積極的関与の一端と見なし、第3クラスタの方がほんのわずかにメディア関与が高い傾向が見られると解釈するのが妥当であろう。したがって、第2クラスタと第3クラスタの認知数の差異は、テレビを初めとするメディアへの関与に起因するものではなく、各クラスタの性別と年代の分布によるものと推察される。どちらも、比較的幅広い年代に分布しているが、第2クラスタは男性が多く、40代以下のやや若年層が多いのに対して、第3クラスタは女性が多く、若年層から高年層にまで幅広く分布している。『欧米以外の最近の社会的出来事』の中に「日韓共催サッカー・ワールドカップ（2002）」が含まれていることと合わせると、第2クラスタには若年層の男性がやや多かったために、スポーツへの関心が高かった可能性がある。

最後に、すべてにおいて認知数が少なかったのは、第1クラスタである。このクラスタは、男女とも若年層を中心としており、雑誌を除いて、あらゆるメディアへの関与がもっとも低いことが特徴的である。古い社会的出来事については、高年層に比べて認知数が少ないのは当然の結果であるが、最近の社会的出来事においても認知数が少ないのは、以下のような解釈が考えられる。第1に、メディアへの関与が低いために、社会的出来事のニュース・ソースを持たない、すなわち、メディアが社会的出来事の認知の規定因となっていることが挙げられる。第2に、年代差が考えられる。特に10代～20代の若年層は生徒・学生が多く、人格の発達途上にあり、未だ社会に関心が向いていないこと、多様なメディアに接触する環境にないことなどが推察される。

2) 鮮明に記憶している外国の社会的出来事

「知っている外国の社会的出来事」の中でも特に鮮明に記憶しているものを3つまで選択させ、1位を3点、2位を2点、3位を1点として得点化し、合計得点を年代別に算出した（表6）。ポイントが高いほど、鮮明に記憶していることを示す。

総じて、どの年代にも順位が高いのは「米国同時多発テロ事件（2001）」、「ケネディ米大統領暗殺事件（1963）」、「ベルリンの壁崩壊（1989）」である。これらの社会的出来事は、時代の新旧はあるものの、決定的瞬間や、出来事を象徴する場面の映像が現存しており、視覚的なインパクトが強いこと、出来事自体が国際的・政治的インパクトを持っており、現在にも影響を及ぼしていること、そのため、報道される機会も多いことなどが共通している。たとえば、「ケネディ米大統領暗殺事件（1963）」は、50～60代の高年層にとっては、日本で衛星中継が開始された日に最初に飛び込んできたニュースであり、リアルタイムでの体験が自伝的記憶と結びつき、生涯を通じて衝撃的な記憶となっていると見られる。ところが、40代以下にとっては、それと同等の衝撃を体験したわけではないにもかかわらず、これらの出来事のポイントが高いということは、メディアの映像が疑似的な体験を構築し、世代を超えて社会的記憶を共有させる機能を有していることを示唆している。

一方、年代によって、ポイントや順位に比較的確な差が見られたのは「日韓共催サッカー・

●表 6 鮮明に記憶している社会的出来事 (単位: ポイント)

順位	社会的出来事	10代	20代	30代	40代	50代	60代	全体
1	米国同時多発テロ事件 (2001)	160	405	372	360	274	248	2,003
2	ケネディ米大統領暗殺事件 (1963)	46	66	101	106	249	481	1,059
3	アポロ 11 号月面着陸 (1969)	22	38	32	78	273	225	690
4	スマトラ島沖地震・津波被害 (2004)	85	163	110	84	69	51	689
5	ベルリンの壁崩壊 (1989)	27	84	170	168	84	85	659
6	日韓共催サッカー・ワールドカップ (2002)	100	172	140	86	46	10	592
7	英チャールズ皇太子、ダイアナ妃と結婚 (1981)	0	20	61	115	75	68	343
8	米スペースシャトル (チャレンジャー) 爆発事故 (1986)	0	4	47	115	64	28	263
9	ビートルズ来日 (1966)	10	41	17	19	70	66	235
10	中国・天安門事件 (1989)	0	9	39	75	54	29	207
11	大韓航空機爆破事件 (1983)	2	9	41	72	23	40	189
12	イラクのクウェート侵攻・湾岸戦争勃発 (1991)	0	31	55	37	22	19	164
13	チェルノブイリ原発事故 (1986)	7	23	62	25	21	23	163
14	サダム・フセイン元イラク大統領の処刑 (2006)	21	47	33	34	14	9	162
15	イラク武装勢力による日本人民間人質事件 (2004)	18	38	35	11	11	7	153
16	ペルー日本大使公邸事件 (1996)	0	23	23	11	28	15	100
17	ソ連崩壊 (共産党支配に終止符) (1991)	1	11	31	19	12	14	89
18	ルーマニアのチャウシェスク大統領夫妻の処刑 (1989)	0	6	24	21	20	12	86
19	クリントン米大統領の不倫騒動 (1998)	0	21	14	10	10	7	62
20	マニラ空港でのベニグノ・アキノ氏暗殺事件 (1983)	3	0	14	13	10	8	48
21	イラン・イラク全面戦争開始 (1980)	0	0	10	17	11	8	46
22	香港、中国に返還 (1997)	2	10	7	11	2	0	36
23	キング牧師暗殺 (1968)	0	3	2	0	6	5	20
24	サイゴン陥落、ベトナム戦争終結 (1975)	1	0	0	0	9	9	19
25	南北朝鮮首脳初の会談 (2000)	1	4	2	2	0	3	17
26	フォークランド紛争 (1982)	0	0	0	6	4	3	13
27	マルコス比大統領夫妻マラカニアン宮殿追放 (1986)	0	0	0	5	3	5	13
28	第3次中東戦争 (6日戦争) (1967)	0	0	0	0	1	6	7
29	韓国朴正熙大統領暗殺事件 (1979)	0	0	0	1	0	4	5
30	テルアビブ空港乱射事件 (1972)	0	0	0	0	0	2	2

Figure
&
Table

ワールドカップ (2002)」、 「スマトラ島沖地震・津波被害 (2004)」、 「サダム・フセイン元イラク大統領の処刑 (2006)」、 「イラク武装勢力による日本人民間人質事件 (2004)」といった欧米以外の 2000 年代の出来事、「英チャールズ皇太子、ダイアナ妃と結婚 (1981)」、 「米スペースシャトル (チャレンジャー) 爆発事故 (1986)」、 「中国天安門事件 (1989)」といった 80 年代の出来事である。前者は若年層のポイントが高く、 後者は高年層のポイントが高い。小城ほか (2010) の研究でも、 どの年代も自身が 10 ～ 30 代に経験した出来事の記憶が鮮明であることが指摘されているが、 本研究においても、 同様の結果が確認された。また、 これらの出来事のうち、「日韓共催サッカー・ワールドカップ (2002)」、 「スマトラ島沖地震・津波被害 (2004)」、 「英チャールズ皇太子、ダイアナ妃と結婚 (1981)」、 「米スペースシャトル (チャレンジャー) 爆発事故 (1986)」は、「ケネディ米大統領暗殺事件 (1963)」のような要人の暗殺・処刑、テロに比して、 国際的・政治的なインパクトが弱く、リアルタイムでの体験の有無と、 そのときのライフステージによって関心が分かれる出来事と考えられる。

さらに、年代の変数を投入して男女別に数量化Ⅲ類を行った (図 4-1 ～ 4-2)。なお、男女とも、10 代は他の年代よりも関連性が極端に低かったため、20 ～ 60 代のプロットを中心に作図した。男女で顕著な相違点はなく、社会的出来事のインパクトにおいては、年代

差の方が強い。20代は、他の年代よりも距離が遠く、男性では「香港、中国に返還（1997）」、女性では「クリントン大統領の不倫騒動（1998）」が挙げられたが、それ以外に特徴はなかった。30代・40代は、「ベルリンの壁崩壊（1989）」、「イラクのクウェート侵攻・湾岸戦争勃発（1991）」、「ソ連崩壊（共産党支配に終止符）（1991）」、「ペルー公邸大使人質事件（1996）」といった80～90年代の出来事が多く挙げられたのに対して、50代・60代は「ケネディ米大統領暗殺事件（1963）」、「アポロ11号月面着陸（1969）」、「ビートルズ来日（1966）」といった60年代の出来事が多く挙げられた。これらのことから、鮮明に記憶されている社会的出来事は、それぞれの世代が10～30代であった時代のものに集中する傾向が認められた。たとえば、「ケネディ米大統領暗殺事件（1963）」は、すべての年代において鮮明に記憶されていたが（前述）、それは50代・60代により顕著な傾向であることも明らかになった。なお、すべての年代のポイントがほぼ同程度であった「米同時多発テロ事件（2001）」は、中央付近にプロットされており、年代差がほとんどなかったことを示している。

以上のことから、出来事を象徴する映像が現存しており、国際的・政治的なインパクトが大きく、後世にも繰り返し報道される社会的出来事が、世代を超えて鮮明に記憶されていると考えられる。その中でも、「米同時多発テロ事件（2001）」のように、全員がリアルタイムで体験した最近の出来事の場合は年代差がほとんどないが、「ケネディ米大統領暗殺事件（1963）」のように、古い出来事の場合は、リアルタイムで体験した50代・60代と、後に映像だけで疑似的な体験を構築した40代以下とでは、情緒的な関与において大きな差が見られる。自身が若年のころにリアルタイムで体験した衝撃的な社会的出来事は、その瞬間の自伝的記憶として強いインパクトを持つだけでなく、その後も映像に繰り返し接触することによって、個人内でそのインパクトがさらに強化されている可能性もある。

▶ 総 括

本報告では、テレビ番組と社会的出来事を取り上げ、外国に関する集合的記憶とテレビとの関連について分析を行った。分析の結果、第1に、自身が若年のときに、リアルタイムで体験した番組や社会的出来事の想起量や情緒的関与が高いこと（バンプ）が確認された。第2に、社会的出来事においては、災害や事故、スポーツ・イベントよりも、戦争・テロや要人暗殺・処刑のように、その出来事自体の国際的・政治的インパクトが強く、後世にまで影響が及ぶもので、かつ、衝突や殺害の瞬間など、その出来事を象徴するような決定的な映像が現存している場合に、バンプや新近性効果を超えて、すべての世代に集合的記憶が構築されることが示された。第3に、子どもころのテレビ熱中度やテレビ視聴制限はテレビコンテンツそのものである番組の認知と関連が見られたが、社会的出来事には関連が見られなかった。このことは、社会的出来事におけるバンプは、直接的に当時のテレビ視聴によって規定されているわけではないことを示唆している。リアルタイムで体験した当時のテレビの視聴度に関係なく、映像の衝撃度や、その出来事に関してパーソナル・ネットワークで共有した体験が集合的記憶を構築していることが考えられる。また、現在のテレビ接触度とは関連が見られたことから、その後、長期的にテレビ（＝その出来事の映像）に接触することによって、リアルタイムでの体験が強化されていくのかもしれない。

さらに、年代やテレビへの関与度と、集合的記憶の関連が複雑であることも明らかになった。総じて、メディア接触が多いほど、番組や社会的出来事の認知数が多かったが、このことは、テレビを初めとするメディアが集合的記憶の構築に寄与しているとする解釈と、社会に対する関心の高い高年層が、メディア接触も多いとする解釈の両方が考えられる。また、高年層ほど古い番組や社会的出来事の認知数は多いが、若年層であっても、テレビへの関与が高い場合には、古い番組や社会的出来事の疑似的な体験を構築する機会が多い

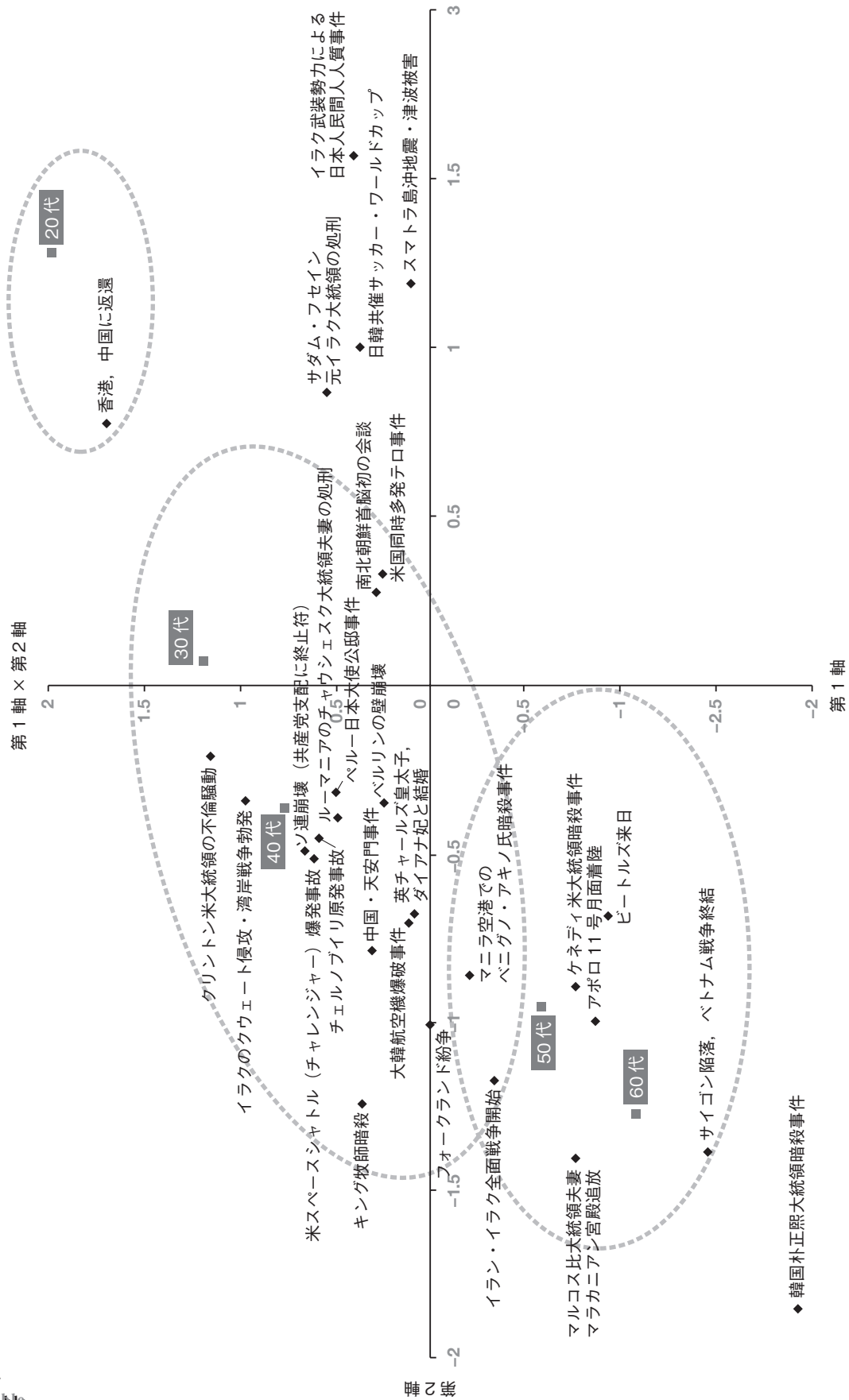


図 4-1 鮮明に記憶している社会的出来事数量化Ⅲ類プロット (男性)

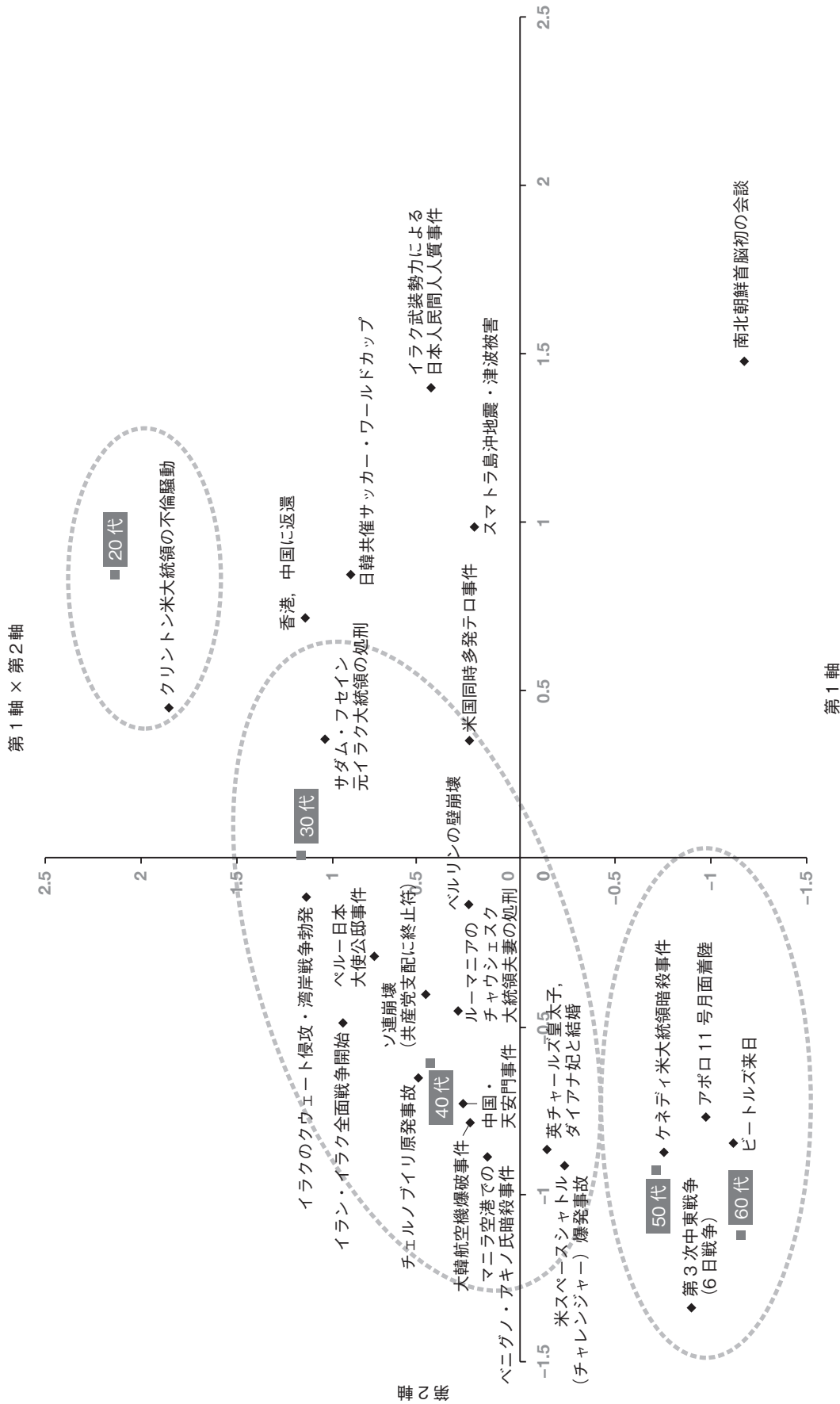


図 4-2 鮮明に記憶している社会的出来事数量化Ⅲ類プロット (女性)

ため、相対的に年代差は小さくなる。高年層においても、テレビへの関与が高ければ、最近の番組や出来事の認知数が多くなるし、最近の体験であっても、バンプと類似性が高い場合には新近性効果が生起する可能性もある。さらに、番組や出来事のジャンルによっても関与が異なる。結果として、単純に年代やテレビへの関与を独立変数とする分析モデルでは、それぞれの影響が相殺され、明確な関係性を見出すことが困難である。

これは、それぞれが育ってきた時代背景を反映している側面と、人格の発達・成熟とともに変化していく側面、すなわち、世代差と年代差が混在していることも一因と考えられる。本報告において、10代・20代の若年層は、番組や社会的出来事の認知、メディア接触などが極端に低い傾向があったが、今後、社会経験の蓄積とともにこれらは上昇していく可能性がある。それに対して、現在の30代・40代は、テレビ視聴が一般的になった70～80年代に子ども時代を過ごしており、特にテレビへの関与が強いことや、現在の50代・60代はアメリカへの憧憬や伝統的性役割観が強く、それに倣ったフレームワークの番組に対する情緒的関与が強いことなど、世代に特有の傾向もある。これらの世代差と年代差を分離するのは困難であるが、本報告では、番組や社会的出来事の認知数によって回答者を類型化し、特定の年代を中心に構成される層と、幅広い年代に分散している層に大別されることを見出した。これらのことから、年代や性別といったデモグラフィック変数によって集合的記憶を説明するには限界があると考えられ、年代や性別を超えたモデルを想定する必要がある。

●引用文献

- 萩原滋・テーシャオープン・上瀬由美子・小城英子・李光鎬・渋谷明子 (2011). 越境する文化とテレビの役割—ウェブ・モニター調査 (2010年2月) の報告(1)— メディア・コミュニケーション (慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要), 61, 75-102.
- Halbwachs, M. (1950). *La mémoire collective*, Paris: Presses Universitaires de France. (アルバックス, M. 小関藤一郎 (訳) (1989). 集合的記憶 行路社)
- 林 香里 (2005). 「冬ソナ」にハマった私たち 純愛、涙、マスコミ・・・そして韓国 文藝春秋
- 池田謙一 (1994). 社会のイメージの心理学 ほくらのリアリティはどう形成されるか サイエンス社
- 岩男寿美子 (2000). テレビドラマのメッセージ—社会心理学的分析 勁草書房
- 川上和久 (2004). イラク戦争と情報操作 宝島社
- 河津孝宏 (2009). 彼女たちの『Sex and the City』—海外ドラマ視聴のエスノグラフィ— せりか書房
- 小城英子・萩原 滋・村山 陽・大坪寛子・渋谷明子・志岐裕子 (2010). 集合的記憶とテレビ—ウェブ・モニター調査 (2009年2月) の報告(2)— メディア・コミュニケーション (慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要), 60, 29-47.
- 牧田徹雄 (1991). 湾岸戦争報道に関する電話調査結果 放送研究と調査, 5, 18-19.
- 西野知成 (1998). ホームドラマよ どこへ行く ブラウン管に映し出された家族の変遷とその背景 学文社
- O'Connor, M. G., Sieggreen, M. A., Bachna, K., Kaplan, B., Cermak, L. S., & Ransil, B. J. (2000). Long-term retention of transient news event. *Journal of the International Neuropsychological Society*, 6, 44-51.
- Rubin, D.C., Wetzler, A.E., & Nebes, R.D. (1986). Autobiographical memory across the lifespan. In D.C. Rubin (Ed.), *Autobiographical memory*. Cambridge University Press. pp.202-221.
- 坂口さゆり (2008). 父ハマる、韓国時代劇 恋愛モノ、ヨン様モノだけじゃない AERA 2008年04月21日 p.46-47. 朝日新聞社
- 佐田一彦 (1983). テレビ輸入番組 川竹和夫 (編著) テレビのなかの外国文化 NHK 出版 pp.24-54.
- 佐藤浩一 (2008). 自伝的記憶研究の方法と収束的妥当性 佐藤浩一・越智啓太・下島裕美 (編) 自伝的記憶の心理学 北大路書房 pp.2-18.
- 島村麻里 (2007). ロマンチックウイルス—ときめき感染症の女たち— 集英社

(小城英子 聖心女子大学文学部専任講師)

(萩原 滋 慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所教授)

(テーシャオープン 慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程)

(上瀬由美子 立正大学心理学部教授)

(李 光鎬 慶應義塾大学文学部教授)

(渋谷明子 慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所研究員)